

OTSUMA WOMEN'S

GRADUATE SCHOOL OF STUDIES IN HUMAN CULTURE

STUDIES IN HUMAN LIFE SCIENCES

STUDIES IN LANGUAGE AND CULTURE

STUDIES IN CONTEMPORARY SOCIETY

STUDIES IN CLINICAL PSYCHOLOGY



OTSUMA WOMEN'S GRADUATE SCHOOL

大妻女子大学大学院
人間文化研究科

人間文化研究科

GRADUATE SCHOOL OF STUDIES IN HUMAN CULTURE

CONTENTS

p. 01	ごあいさつ	p. 09	言語文化学専攻	p. 15	人間文化研究科 3つのポリシー
p. 03	大学院の学び	p. 11	現代社会研究専攻	p. 17	学費・奨学金
p. 05	修了後の進路	p. 13	臨床心理学専攻	p. 18	入学試験・進学説明会日程
p. 07	人間生活科学専攻				

MESSAGE FROM ICHIKAWA Hiroshi

知の探求を深める

大妻女子大学 学長 市川 博

本学大学院は、人間の生活と文化全般に関して、広い視野と学際的・総合的視点に基づいた理論的・専門的・実践的な高度の教育と研究を行うことにより、社会関係資本の重要性が増す21世紀の社会をリードできる人材を養成します。そのためには現代社会における複雑な課題に対し、理論と実践を融合させた新たな視点を養うとともに実践的な知識と研究が求められます。皆さんには多様な価値観を尊

重し、理論と実践を融合させながら、新たな課題に挑戦し、豊かで持続可能な社会づくりに貢献する視点を養ってほしいと願っています。本学は、すでに習得した知識や技術をより一層深めて、広く社会と専門領域に貢献する意欲の高い人、また、多様な経歴や独創的な研究課題を持った人を幅広く求めています。私たちは、皆さんが未来の社会に貢献できるよう、全力で支援していきます。

MESSAGE FROM AOE Seiichiro

分野横断型の学びから 新たな発想や創造を

大妻女子大学大学院 人間文化研究科長 青江 誠一郎

本学の大学院人間文化研究科は、人間生活科学、言語文化学、現代社会研究、臨床心理学専攻の修士課程と、人間生活科学、言語文化学専攻の博士後期課程からなります。各専攻とも専門領域で活躍する100名以上の教員からなる総合研究科です。専門性により複数の専修に分かれている専攻がありますが、専攻の枠を超えて分野横断的に履修することが可能です。テーマごとに指導教員と副指導教員を設け、専門性の異なる教員から多角的に指導を受けることもできます。また、一つの研究科として領域を超えた学びができることが特徴で、合同論文発表会もその特徴の一つです。さらに、社会人特別選抜による入学者を受け入れており、勤務形態に配慮した

教育研究体制ならびに長期履修学生制度を設けているのも本研究科の特徴です。既卒者の大学院入学も年々増えています。また、各種の奨学金制度を設けているほか、研究費助成も行うなど、大学院生の研究活動に対する支援にも留意しています。各分野で活躍する教員の研究内容をご覧いただき、本学で研究指導を受けることを希望される方は性別、年齢問わずぜひチャレンジしてみてください。専攻ごとに進学説明会を開催しますので、具体的な研究の相談をしてください。学部での研究のさらなる発展、資格の取得、社会人の新たな学び直しに最適な講座をそろえています。ぜひ、大学院へのチャレンジをしてみてください。きっと研究の世界が広がります。

歴史・沿革

1972	1977	1980	1981	1982	1995	2002	2005	2008	2010	2014	2018	2021
» 家政学部を基礎として家政学研究科食物学専攻(修士課程)ならびに文学部を基礎として文学研究科国文学専攻(修士課程)および英文学専攻(修士課程)を設置	» 家政学研究科に児童学専攻(修士課程)を増設	» 家政学研究科に被服学専攻(修士課程)を増設	» 人間生活科学研究科を設置	» 家政学研究科に、被服学専攻(修士課程)および人間生活科学研究科を基礎に児童学専攻の関連分野を組み入れた被服環境学専攻(博士後期課程)を増設	» 家政学研究科被服環境学専攻(博士後期課程)を家政学研究科人間生活学専攻(博士後期課程)に名称変更・改組 » 文学研究科国文学専攻(博士後期課程)・英文学専攻(博士後期課程)を増設および社会情報研究科社会生活情報専攻(修士課程)を設置	» 人間関係学部を基礎として人間関係学研究科社会学専攻(修士課程)・臨床社会学専攻(修士課程)を設置	» 人間関係学研究科臨床社会学専攻(修士課程)を増設	» 人間生活科学研究科を人間生活文化研究所に名称変更・改組	» 家政学研究科、文学研究科、社会情報研究科および人間関係学研究科を統合し、人間文化研究科に改組	» 人間文化研究科言語文化学専攻に国際文化専修(博士後期課程)を増設	» 人間生活科学専攻(修士課程)児童発達臨床学専修を保育・教育学専修に名称変更	» 人間生活科学専攻(博士後期課程)生活人間学専修、臨床人間学専修、生活計画学専修、生活素材学専修を健康・栄養科学専修、生活環境学専修、保育・教育学専修に変更・改組

大学院の学び

特色
01

少人数制の授業により、大学院生の興味関心に合わせた指導が可能

少人数制の授業による「教員と院生の距離の近さ」と「きめ細かな指導」。これが大妻女子大学大学院の最大の特徴です。興味関心に合わせて、授業の内容をカスタマイズすることも可能です。

Topics 01

院生ごとにカスタマイズされた充実の指導体制

本学大学院の魅力は、担当指導教員だけでなく、専門外の教員から一人ひとりにカスタマイズされた授業を受けられ、研究指導も院生ごとに合わせた手厚い内容であることです。授業はディスカッション形式で実施されるものが多く、院生は教員との対話の中で答えを導き出すトレーニングを積むことができます。また、少人数制だからこそ、発言機会も多く、分かりやすく他者へと伝える技術、発信力や表現力も磨くことができます。

Topics 02

人とのつながりが学び・研究を支える

本学大学院には、困ったときに誰にでも、なんでも相談しやすい環境があります。それは、親身な教員が多いだけでなく、同じ志を持った先輩や同期が身近にいて人とのつながりが形成されるからです。多くの時間をともに過ごすことで、お互いの変化に気づきやすく、研究・勉強以外でも互いにサポートしながら大学院生活を送ることができます。心理的にも物理的にも、他者のサポートを感じながら院生として過ごすことができます。

特色
02

他専攻科目の履修も可能。専門分野を超えた研究体制

個々の専門性を重視しながらも、専門領域外から自らの専門性を俯瞰（ふかん）し知見を深めることができるよう、他専攻科目の履修も認めて幅広く学べる機会を設けています。

特色
03

働きながら学ぶ社会人のための支援制度

【入試制度】

社会情勢の変化に伴い、社会人の学習の機会を一層拡大して創造性豊かな人材を育成することが求められています。本学大学院の社会人特別選抜では、高度な学識の修得と研究能力向上に意欲的な社会人を積極的に受け入れています。

※詳しくは学生募集要項をご覧ください。

【学習・研究支援】

職場の業務内容や勤務時間を考慮し、授業や研究相談などを対面・オンラインと選択することができます。一人ひとりに合った学習・研究活動が進められるよう指導教員や教育支援グループが丁寧なサポートを行っています。

特色
04

充実した学習環境

千代田キャンパスに、大学院生専用の自習室「大学院生室」があります。大学院生室には、レポート作成や論文作成のためのワークテーブルスペースや、書架スペースのほかに、目的や用途に合わせてレイアウト変更が可能でグループワークにも利用できるスペースがあります。また、ノートパソコン、プリンター、個人ロッカー、無線LAN、プロジェクターなどの設備や飲食スペースも完備され、大学院生の皆さんの研究生生活をサポートします。



特色
05

大妻マネジメントアカデミー（OMA）

本学の院生・学生であれば無料で受講できる課外講座で、ビジネスの世界で役立つ知識やスキルの習得を目的とした学内ダブルスクールです。ビジネスやマネジメント、資格など、多彩なプログラムの中から学びたい講座を自由に選択でき、オンデマンドの講座もあります。各界の第一線で活躍する講師の指導により、企業や社会にとって魅力的な人材に成長することができます。

2025年度主な開講講座 ▶ 営業基礎講座、論理的思考トレーニング、ビジネスコミュニケーション入門講座、戦略的キャリアアップ講座、宅地建物取引士養成講座、日商簿記検定対策講座、ファイナンシャルプランナー養成講座、コピーランディング講座（ほか）

特色
06

大学院授業科目早期履修制度

本学大学院に進学を検討している大妻女子大学の学部4年生を対象に、大学院進学後の学修についてイメージしてもらうために、本学大学院修士課程の授業科目を早期履修できる機会を提供する制度です。本制度により修得した大学院科目の単位は、早期履修者が学部を卒業後、本学大学院の当該専攻に入学した場合に限り10単位を限度として、大学院の修了要件単位に含めることができます。

詳細はこちら



支援制度：助成金について

大妻女子大学人間生活文化研究所では本学大学院生の研究を支援すること、本学大学院の教育・研究を高度化・活性化することを目的に大学院生研究助成を行っています。

大学院生研究助成（A）博士後期課程在籍者…最大15万円
大学院生研究助成（B）修士課程在籍者………最大10万円

詳細はこちら



専攻構成・修業年限・学生定員

※修士課程の最長在学年数は4年、博士後期課程の最長在学年数は6年です。ただし、休学期間は、在学年数に算入しません。

研究科	専攻	専修	課程	修業年限※	入学定員	収容定員
人間文化研究科	人間生活科学専攻	健康・栄養科学専修	修士課程	2年	12名	24名
		生活環境学専修				
		保育・教育学専修				
		健康・栄養科学専修	博士後期課程	3年	3名	9名
		生活環境学専修				
		保育・教育学専修				
	言語文化学専攻	日本文学専修	修士課程	2年	8名	16名
		英語文学・英語教育専修				
		国際文化専修				
		日本文学専修	博士後期課程	3年	3名	9名
		英語文学・英語教育専修				
		国際文化専修				
	現代社会研究専攻	情報コミュニケーション専修	修士課程	2年	6名	12名
		臨床社会学専修				
	臨床心理学専攻	—	修士課程	2年	6名	12名

（男女共修）

修了後の進路

社会で活躍する修了生

人間生活科学専攻



大東カカオ株式会社 勤務
大竹 那実さん

人間生活科学専攻
健康・栄養科学専修 修士課程
2021年修了

研究機関として高度な設備が完備。
貴重な経験と手厚い指導を受けられました

大学院修了後、チョコレート原料専門メーカーに就職し、現在は研究開発部に所属して新商品開発や特許取得のための研究に携わっています。もともとスポーツ栄養に関心があった大妻女子大学に入学し、食品メーカーの開発職として働きたいと考えていたところ、就職のためにも、より高い専門知識を身につけ、実験スキルを磨いてみては、と研究室の先生から大学院進学をすすめられました。大妻女子大学大学院を選んだのは、学部生時代の研究を継続できることに加え、高度な設備があり、先生方の指導も手厚いという実感があったから。特に設備面では、企業にもなかなかそろっていない機器や解析ソフトがあり、貴重な経験を積めました。また、食品メーカーの研究職歴があり、食品分野の研究で高い実績のある指導教員のもとには、数多くの食品メーカーから委託研究や共同研究の依頼が舞い込みます。それらに携わることで、食品研究開発のイメージが膨らんでいきました。

研究を通して得た
問題解決力や発想力、
仕事に役立っています

大学院では、マウスのメタボリックシンドローム関連指標に及ぼす、穀物繊維と腸内有用菌の組み合わせの効果について研究。目的、方法、結果、考察の一連の流れを意識的に実践して研究に取り組んだことが、現在の業務に大いに生かされています。学会や展示会にも積極的に参加させていただき、最新の情報や多様な考え方に触れることができました。常に新しい知識を取り入れ、柔軟な視点で課題に取り組む力が養われたと感じます。このような研究を通じて身についた力や考え方を企業にアピールすると、採用につながりやすいと教えてくださったのも指導教員です。研究指導と並行して、就職活動においても本当に親身にサポートしていただき、希望の就職が実現しました。今後、より国際的な視野を持ち、裁量権の大きな仕事に関わっていくために、語学力も向上させて挑戦したいです。



主なキャリアイメージ

- 専修免許状取得後の中学校・高等学校家庭科教員
- 食品企業の総合職・専門職
- 国立研究機関の技術職員
- 専門学校・短期大学などの栄養教員
- 保育者養成校（専門学校・大学・短期大学）の教員
- 公立小学校の教員 など

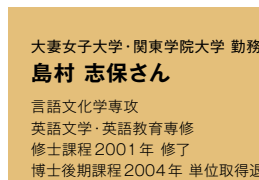
言語文化学専攻



千葉県匝瑳市立野栄中学校 勤務
小川 あかりさん
言語文化学専攻
日本文学専修 修士課程
2024年修了

平安文学研究を通じて得た思考力や視点を
中学校教員の仕事に生かしています

他大学の日本文学学科を卒業後、平安文学の専門的な研究を深め、教職の専修免許状を取得するために大妻女子大学大学院に進学。少人数での丁寧な指導、国立国会図書館など研究に欠かせない施設へのアクセスがよいといった恵まれた環境で、研究方法や情報との向き合い方、思考の組み立て方、多角的に物事を捉える視点などを修得しました。研究を通じて得た学びを中学校教員の仕事に生かしています。



大妻女子大学・関東学院大学 勤務
島村 志保さん
言語文化学専攻
英語文学・英語教育専修
修士課程2001年 修了
博士後期課程2004年 単位取得退学



先生との距離の近さや助手の方々のサポートが
英米詩研究を支えてくれました

大学院在学中は現代英米詩を研究。数多くの作品に触れ、修士論文では「エリザベス・ビショップの詩の構造」を考察しました。すぐに質問できる先生との距離の近さや、大妻女子大学卒業生の助手の方々の手厚いサポートなど恵まれた環境下で研究に励みました。現在は大妻女子大学などで英語を教えています。学生たちが個別に質問できる時間を設け、英語を通じた豊かな知性の育成に努めています。



SCSK 株式会社
ソリューション事業部 勤務
吉越 里枝さん
言語文化学専攻
国際文化専修 修士課程
2022年修了

研究のプロフェッショナルである教授陣との
一対一の学びで「考え抜く力」が身につきました

豊かな知識や経験を持つ教授たちは、研究において考え抜くことのプロフェッショナルです。先生方と一対一で学ぶことで、自ずと考え抜く力が磨かれていきました。研究では「中国のスマートシティ化」に取り組み、日本でもITを駆使して社会へ付加価値を生み出したと考えるようになりました。大学院で身につけた力は、多方面からお客さまの求めることを考え抜く今の仕事に役立っています。

主なキャリアイメージ

- 専修免許状（国語・英語）取得後の中学校・高等学校教員
- 日本語教員
- 学芸員・図書館司書
- 研究職を目指した進学
- 一般企業総合職 など

現代社会研究専攻



目白大学 勤務
新美 咲月さん

現代社会研究専攻
臨床社会学専修 修士課程
2023年修了

学びやすい環境が整っているので、
ソーシャルワーカーの仕事と両立できました

2014年に大妻女子大学を卒業後、取得した社会福祉士・精神保健福祉士の資格を生かして精神科病院のソーシャルワーカーとして働いてきました。臨床現場で経験を重ねるにつれ、自分の支援の方向性や成長の根拠を得たいという気持ちが高まり、就職して7年目、働きながら大学院で学びを深めることを決意。フルタイムの仕事と両立させるため長期履修学生制度を利用し、先生方にも履修計画の相談に乗っていただいて3年間で修士論文を完成させることができました。働きながらも学びやすい環境が整っている大学院です。臨床での実践と大学院での学びが循環し、多角的な視点で物事を考えられるようになったと感じます。

先生の後押しもあり、
専門職育成の教育分野に
挑戦します

本大学院の魅力は、異なる領域の知見を融合して新たな可能性を模索できる点。私が入組んだソーシャルワークにおける臨床的な研究においても、情報コミュニケーションの視点を取り入れたり、さまざまな領域の先生方に相談したりすることで、ICTを活用した環境整備の考察を深められました。また、疑問点を掘り下げて深く考え、言語化して伝える楽しさを感じたので、教育分野にも関心を持つようになりました。大学院修了後、臨床での実践を継続するか、新たに教育の道に進むか迷っていたところ、指導教員からの後押しもあり、目白大学の社会福祉士・精神保健福祉士の養成課程で実習や演習の指導に挑戦することを決めました。今後さらに、ソーシャルワーカーの実践力向上や後進育成に貢献する研究を進め、実習教育の発展に寄与したいです。



主なキャリアイメージ

- 専門社会調査士資格を活用する、
社会調査／マーケットリサーチ専門会社
- IT技術を活用する業務／コンテンツ産業
- 子育て支援や女性自立支援に携わる公務員／
NPO・NGO法人
- 研究職を目指した進学
- 一般企業総合職 など

臨床心理学専攻



独立行政法人地域医療機能推進機構 東京新宿メディカルセンター／
医療法人ラック 綾瀬メンタルクリニック 勤務
桜美林大学大学院 国際学術研究学位プログラム
心理学研究領域 博士後期課程 2年
西堀 まゆさん

臨床心理学専攻
修士課程
2024年修了

社会心理学と臨床心理学のいずれも
深く学べる環境が整っています

他大学の心理学科を卒業後、大妻女子大学大学院の臨床心理学専攻に進学したのは、社会心理学と臨床心理学の先生がいっぱいあって、学びの領域や視野を広げられると感じたからです。進学当初は、社会人を対象にした社会心理学寄りの研究をしたいと漠然と考えていたのですが、防災心理学が専門の指導教員の協力を得て、消防職員のメンタルヘルスにおけるポジティブな心理状態に着目した研究に取り組みました。消防職員を研究対象にしたアプローチは珍しい視点で、実践的意義も大きいことなどから、優秀学会発表賞の受賞につながりました。また、研究を通じて他の研究者と意見交換をしたり、交流を深めたりすることで、研究に対する視野の広がりや面白さ、奥深さを実感。さらに研究を深めるために、桜美林大学大学院の博士後期課程に進みました。

心理支援の質の向上に貢献する
研究と臨床の両立を
図りたいです

大妻では、心理臨床についても、授業や学内外での実習で心理臨床家として必要な知識や専門家としての在り方を学びました。修士課程修了後も実習で担当した学内心理相談センターのケースを継続し、スーパーヴィジョンも受けられるのは、他の大学院にはない手厚い指導体制の一つです。現在、取得した資格を生かして総合病院の精神科と精神科クリニックで週3日働いていますが、まだまだ臨床経験が少ないので、スーパーヴァイザーの指導が本当に役立っています。2年間の修士課程で学んだのは、物事の本質を理解し、起こりうることを予測する大切さ。研究においては、どこに注目するか、何を大事にするかを明確にすることが肝要だと知りました。研究と臨床の基礎を体系的に理解し、その重要性を実感できたことが成長につながっています。これからも、研究と臨床の両立を図りながら、心理支援の質の向上に貢献できるようなキャリアを築いていきたいです。



主なキャリアイメージ

- 精神科病院、クリニックなどの医療領域の心理士
- 発達障害などの療育施設、児童養護施設などの福祉領域の心理士
- 小学校・中学校・高等学校のスクールカウンセラー
- 青少年相談センターの相談員
- 大学学生相談室などの心理相談員 など

生活を総合科学として捉え、
生活の知を探究します

本専攻は、健康・栄養科学、生活環境学、保育・教育学の3専修からなりますが、それぞれの研究領域の枠を超え、人と人間生活について総合的に探究することを目指しています。

健康・栄養科学専修では、医療、公衆衛生、食育、企業における食品開発などの領域で活躍する「食と健康」の専門家を養成します。生活環境学専修では、衣・食・住・生活・地域・地球環境のサイエンス、マネジメント、デザインの視点から複合的に捉えられる人材を養成します。保育・教育学専修では、人生の各周期段階における発達臨床上の諸問題について、その本質や背景要因を解明し、理論的・実践的な問題解決能力を身につけ、保育・教育・臨床などの分野において高い見識を身につけた人材および後継者を養成します。

そのほかに、生活科学が取り扱うべき多様な授業科目を提供していますので、大学院生は大きな自由度を持って自らの関心に合わせて履修できます。

修士論文題目

- 炎症性腸疾患モデルマウスにおける食物繊維の摂取による炎症抑制効果の検証
- 大豆食物繊維がヒトの腸内細菌叢に及ぼす影響（おからパウダー：ヒト試験）
- 小麦と大麦に含まれる低分子及び高分子水溶性食物繊維の機能性について
- 単身勤労者における体重管理のための栄養教育介入の検討
- 地域高齢者のフレイル予防に関する研究－過去の健康状況が及ぼす低栄養リスクの関連－
- 給食施設において管理栄養士に求められる調理技術・献立作成スキル
- 裁目なしの長着の縫製
- 里海を活用した小学生対象の海洋教育プログラムの開発と評価法の検討
- 海外での子育てを経験した母親の発達過程
ードイツ長期滞在日本人家族の母親へのインタビュー調査に基づいてー
- 自閉的傾向のある子どもと保育士の相互交流の変容－自由遊びの場面の分析－

令和7(2025)年度
授業時間割表人間生活科学専攻
保育・教育学専修 修士課程 2年
家徳 沙恵子さん研究環境や
サポートが充実し、
新しい視点と目標を
発見できる

幼稚園と保育園で10年以上経験を積む中で、もっと子どもに寄り添う保育がしたいと思い専門性を高めるために大学院に進学。保育士を続けながら「幼児の染色活動のプロセス」の研究に取り組んでいます。伝統文化である藍染などの研究はあるものの、幼児の染色活動自体に着目した先行研究は少なく、芸術教育を専門とする指導教員のアドバイスを受けながら、草花や玉ねぎ、市販の染め粉などさまざまな素材を用いて保育園児の染色活動について研究中です。所属する保育・教育学専修には幅広い年齢層の社会人が多数在籍し、小学校や大学などで教えている方も。子どもとの丁寧なか関わり方や鋭い視点に触れたり、それぞれの教育現場の話を開けたりと視野が大きく広がる環境です。仕事の状況に合わせ、授業の時間や形態も柔軟に対応していただけるので、研究と仕事が両立でき、子どもを見る新たな視点と今後の目標の発見につながっています。

教員紹介

☆の教員は研究指導担当 ★の教員は博士後期課程兼任 ○の教員は博士後期課程研究指導担当

健康・栄養科学専修

- 青江 誠一郎 教授** ☆★
基礎栄養学
食物繊維の摂取による腸内細菌叢の改善と代謝産物による生活習慣病予防に関する基礎研究を行う。各種穀類、藻類、機能性食品素材（水溶性食物繊維など）を研究材料とする。
- 岩瀬 靖彦 教授** ☆★
予防栄養学
一次予防の実現のために、人の健康状態に関連する食・生活習慣への影響因子を収集し、栄養疫学を用いて解析するための手法について研究する。
- 大田原 美保 教授** ☆★
調理科学
調理操作や食材選択による食べ物のおいしさの制御を目的として、機器による客観的測定と人による官能評価の両面から研究を行う。特に、調理による好ましい食感創出とその保持を研究対象とする。
- 小野 友紀 准教授** ☆
調理科学
保育所を主なフィールドとして、①保育園児の食事摂取における発達的变化過程の検討、②保育所における多職種が連携した乳幼児の食事援助の検討を研究テーマとしている。
- 清原 康介 教授** ☆
公衆衛生学、疫学
病院外で起こる心停止の発生や加熱式タバコの使用など、公衆衛生学的課題を研究。データベースを構築、統計的手法を用いて解析し、将来の予防・介入に役立つようなエビデンス構築につとめる。
- 小林 実夏 教授** ☆★
公衆栄養学、栄養疫学
①食習慣を把握するための評価方法に関する研究。②女性の生活習慣と食事要因に関する栄養疫学研究。

生活環境学専修

- 赤澤 真理 准教授**
建築歴史意匠、日本住宅史
日本住宅の歴史を、時代の社会的文化的背景から研究している。文献・絵画・遺構などを史料に、当時の使い方という視点から、平面構成・空間構造・意匠の分析を行う。
- 内田 直子 教授** ☆
被服心理学、衣生活行動論、消費生活学
私たちの生活をみつめることを根拠に置きながら、人間－環境系研究（被服心理学、環境心理学）の視点からみた服装と空間・場の適合研究、近現代の衣生活文化と消費者行動に関する研究などを行う。
- 大橋 寿美子 教授** ☆★
住居学、住居計画
小家族化した現代において家族を超えたつながりをつくる住まい方や住まいの計画および地域の在り方について研究および実践活動を行っている。
- 黒沼 吉弘 教授** ☆
環境政策論、環境資源経済学
人類が共有する環境資源の经济管理・制度・政策に関する理論的・実学的研究。特にクジラやマグロなど高度回遊性海洋生物資源の管理、利用をめぐる経済や経済法、経済政策を検討する。
- 小関 右介 准教授**
生態学 生物環境保全
環境DNAを用いた離島淡水魚類の群集動態理解、安定同位体比を用いた稲田養魚の生態系影響評価、長期データを用いた分断化河川の魚類個体群維持機構の解明等の生態学的研究を行う。
- 四ノ宮 美保 教授** ☆
環境分析化学、環境毒性学
化学物質の環境リスクを評価する基礎研究。化学物質の環境モニタリングや培養細胞を用いた毒性メカニズムの解析、また環境リスクを可視化する手法を検討している。
- 下田 敦子 准教授**
民族服飾計量学、生活技術論
東南アジア狩猟採集社会～山岳地域農耕社会を対象に人類史における衣生活の変遷、伝統衣服製作技術の伝承過程、人の発育、発達に伴う技術習得過程の計量的研究を行う。
- 白澤 多一 教授** ☆
都市建築環境工学・風工学
都市の風環境・汚染物質拡散、室内の空気環境の予測手法や日常生活における人の風に対する印象、屋外での活動内容に応じた風の適不適についての評価について研究している。
- 竹内 知子 教授**
遺伝学
生物の発生に重要な役割を果たすRNAの局在化について、真核生物のモデル系である酵母を用いて研究している。

保育・教育学専修

- 石井 章仁 准教授**
保育学、保育・子育て支援
子どもが育つ社会的仕組みや子育て家庭への当事者主体の支援について関心がある。特に、保育や子育て支援に関する諸課題、保育内容、計画や評価、研修、多文化保育などの研究を行う。
- 石井 雅幸 教授** ☆★
理科教育方法、小学校教育
幼児期・学齢期を対象に、以下の点について教育方法的に研究を進める。①子どもは持っている「知」をいかに転移させて学ぶか②自然体験を行う意義③食育の意義。
- 大谷 洋貴 専任講師**
算数・数学科教育、統計教育
算数・数学科教育および教科等横断的な統計教育について、教育実践の理解や教授現象の解明に重要な理論的側面を検討・考察しながら課題に取り組む。
- 岡 健 教授** ☆
園内研修法、環境構成論、遊び論、次世代育成支援
子どもが育まれるために大人（市民から専門家まで）は何をなすべきか、実践の現場から制度・施策までの研究を行う。
- 加藤 悦雄 教授** ☆
児童福祉論
社会福祉の分野を中心に子どもを取り巻く生活問題（または福祉ニーズ）の把握と課題解決に取り組む市民協同セクターの動きの研究を行う。関連して、子どもの権利擁護の方法などの検討も行う。
- 金田 卓也 教授** ☆★
芸術教育
[博士後期課程・修士課程専攻主任]造形的表現に焦点を当て、研究指導を行う。これまで発展途上国の子どもたちの造形活動を、多元文化的なアプローチで研究している。
- 樺山 敏郎 教授**
国語科教育
学校教育における教科「国語」の理論・実践について研究を行う。音声および文字による表現領域、説明系統および文学系統の読解領域を中心に小学校国語科教育のありようを解明する。
- 久保 健太 専任講師**
教育哲学
①複数の思想を組み合わせて認識枠組みを編み出し、②保育実践に潜む「学び」を丁寧に構造化する。③そうして、保育実践へのヒントを、保育現場にフィードバックする。
- 厚東 芳樹 准教授**
身体教育学
優れた教師は多様なものごとへの「関心」から「知識」を豊富に獲得し、その知識を中核に「出来事の予兆」に気づき、言語的相互作用を展開しているという研究仮説を実証している。

- 小治 健太郎 教授** ☆
機能性食品学
種々の機能性食品素材を用いて、ヒトでのエネルギー代謝研究、睡眠研究、自律神経活動研究などに関わる有効性評価を行う。
- 高波 嘉一 教授** ☆★
応用健康医学、運動生理学
生活習慣病予防に対する運動、栄養の効果の分子メカニズムを明らかにし、より効率的な運動法、食療法などを個別に提案できるシステムを構築する。
- 田中 直子 教授** ☆★
食品生化学、栄養生化学、細胞生化学
メタボリックシンドロームの発症機構および機能性食品成分の予防効果に関する、細胞を用いた基礎的研究。機能性成分が生体内で機能を発揮する様子を可視化・定量する。
- 玉木 有子 准教授**
調理学、食品栄養学
食べ物を持つ栄養性、嗜好性、機能性のうち、消費者の受容性を大きく支配しているのは嗜好性といえる。食べ物のおいしさとは一体何であり、いかに捉えるかを、人と食べ物の両側面から研究する。
- 堀内 啓史 教授** ☆
食品加工工学
新規な食品加工技術の開発から新製品を生み出す「シーズ型製品開発」を研究テーマとし、最終的には企業に提案し実用化することを目標とする。研究対象はヨーグルトとする。

- 團野 哲也 教授** ☆★
被服材料学、染色化学
繊維の構造物性測定や、染料の染色機構解析などの実験を通じて、被服材料とヒトの関わりを探究する。そしてこれらの知見を包括して、“ヒトはなぜ服を着るのか”を追究する。

- 手呂内 伸之 教授** ☆
植物生理学
マメ科植物と根粒菌の共生関係の獲得の機構を分子生物的な手法を用いて研究を行う。

- 中川 麻子 准教授** ☆
服飾文化史、デザイン史
近代日本の染織品、服飾、手芸などについて、歴史とデザインの視点から考察する。博物館調査、文献収集、資料の講読、技術復元などを通じて研究指導を行う。

- 中川 まり 准教授**
家族社会学、家族関係学、ジェンダー研究
家族における性別役割分業、父親の子育て・家事、母親のキャリア形成などについて量的方法を中心とした研究を行っている。夫と妻の社会的役割と家庭内役割との関連、夫婦の相対的資源にも着目している。

- 中島 永晶 教授**
ファッションマーケティング、デザインマネジメント
①効果的なブランディングワークの在り方。②マーケティング企画およびデザイン企画提案。③芸術文化情報のファッションビジネス教育への活用。

- 細谷 夏実 教授** ☆★
細胞生物学、海の環境教育
水生生物、特に、海産無脊椎動物卵の初期発生過程などを指標として、マイクロプラスチックやポストハーベスト農業の影響を細胞生物学的側面から検討している。

- 松本 暢子 教授** ☆★
住居学、住宅および住宅地計画、都市計画
①宅地の更新実態と家族の住生活史。②家族の高齢化に伴う居住問題。③ハウジングと都市計画の連携。④地方自治体の住宅政策・都市計画。以上を研究対象としている。

- 水谷 千代美 教授** ☆★
被服機能設計学
消臭性、抗菌性、SGDsを配慮した繊維等の機能性繊維の特性を調べ、被服分野への応用を目的とする。人、衣服、環境を一つの系として安全で快適な衣服の機能を探る。

- 坂田 哲人 准教授**
教育・保育経営学、比較教育・保育学
学校あるいは保育所・幼稚園を対象としたマネジメントに関する領域を専門とする。組織や人材に着目した効果的な経営の在り方を追究する。海外の学校・園も調査対象とし、比較研究にも取り組んでいる。

- 澤井 陽介 教授**
社会科教育・教育課程論
小中学校社会科の学習原理や指導方法・内容等についての授業実践に基づく研究や「小中学校学習指導要領総則」を原理とした教育課程の改善に資する研究を行う。

- 柴山 真琴 教授** ☆★
発達心理学、異文化間心理学
文化間移動を経験した子どもや国際結婚家族の子どもなど、二文化交錯環境で育つ子どもの発達過程を、日常的に参加する社会的実践に根差して質的に分析を行う。

- 高辻 千恵 准教授**
保育学
保育所等における保育・子育て支援の諸課題について研究を進める。①保育における振り返り・評価と保育者の専門性向上 ②保育所等の特性を踏まえた子育て支援の在り方 ③地域における保育所等と関係機関の協働・連携。

- 高橋 ゆう子 教授** ☆
臨床心理学
①幼児期・児童期の障害のある子どもと母親への支援。②保育や教育における特別な配慮が必要な子どもへの支援の在り方。③自閉症スペクトラム障害に関する養育支援。以上について研究する。

- 林 明子 専任講師**
教育学、教育社会学
家族関係や家庭内での役割に着目しながら、社会経済的に困難を抱える世帯に育つ子ども・若者の移行過程について研究を行っている。また彼らを対象とした支援事業についても検討する。

- 久富 陽子 教授** ☆
保育学
障害のある子ども、外国人の子どもなど特別な配慮を要する子どもの保育に関する保育方法や内容など、子どもの育ちおよび保育をめぐる課題についてさまざまな視点から研究を進める。

- 本田 周二 教授** ○
社会心理学、キャリア教育
友人関係に関する量的・質的研究を行っている。主に、友人関係の機能や友人がいないことによる心理的な影響について、青年期から成人期までの国内外のデータを収集し、研究している。

- 矢野 博之 教授** ☆
教師教育、学校教育論
教育活動や教授行為について、教育職や関係機関のありようの解明を目的に、量的アプローチ・質的アプローチなど多様な視点や方法論から研究を行う。

- 山本 真知子 准教授**
子ども家庭福祉、社会的養護
さまざまな課題のある子どもとその家族への支援を中心に研究している。①里親・ファミリーホーム家庭への支援②障害児・難病児のきょうだいへの支援③保育所などにおける地域への家庭支援。

日本語、英語による文学と、
その背景にある文化について考察します

修士課程は三つの専修に分かれます。入学定員の3倍以上の教員が研究と教育を担当します。日本文学専修は、古典文学分野・近代現代文学分野と日本語学分野を主に研究します。上代(奈良)・中古(平安)・中世(鎌倉・室町)・近世(江戸)・近代現代(明治以降)・日本語学のいずれかを専門としますが、時代をわたっての研究も可能です。英語文学・英語教育専修には三つの分野があり、英語文学分野は主に英米の文学を通して、英語学分野は統語論から語用論まで言語を切り口として、それぞれ英語圏の言語文化を研究の対象とします。英語教育分野では英語を介した言語教育を推進して異文化交流に貢献する英語教員を養成します。なお英語教育分野では、現職教員(小・中・高)の方々のニーズに応え、勤務を継続しながら受講できるよう、夜間の開講など柔軟性のある時間割を計画します。国際文化専修は、流動化し多様化する国際状況の中で、多文化・多言語を対象とする研究と教育を推進して研究者を養成します。それとともに、欧米のみならず中国・韓国などの地域文化などに対する高いレベルでの専門的な知識や情報処理能力を備え、国際的な文化・社会における交流とその形成に参画できるコミュニケーション能力や実務的能力を身につけた人材を養成します。なお3専修に設置されている博士後期課程で、専門性をさらに高めることができます。

修士論文題目

- 『落窪物語』の人物造型―道頼と姫君を中心に―
- 脇狂言の祝言性
- 『夜の寝覚』論―姉妹をめぐる語り―
- 『和泉式部集』勅字歌群論
- リーディング・ストラテジーの活性化と長文読解におけるその効果
- 大韓民国からブラジル連邦共和国・アルゼンチン共和国への移民政策:1950年代から1980年代を中心に
- 台湾における服務文化
- 桜の樹の下に眠る感情

令和7(2025)年度
授業時間割表



言語文化学専攻
英語文学・英語教育専修 修士課程 2年
柏木 真緒さん

個人のコミュニケーションに
焦点を当て、
英語と日本語の表現の
共通項を探究



学部生時代、就職か進学かで迷っていたのですが、院生と一緒に大学院の授業を受けられる早期履修制度を4年次に利用したことで大学院での学びのイメージを具体的に描け、進学を決める材料になりました。研究テーマは、暗黙の了解、行間を読むといった文脈(コンテキスト)に対する依存度が高いハイコンテキスト・コミュニケーションについてです。これまで、日本語話者はハイコンテキスト文化、英語話者はローコンテキスト文化といわれてきましたが、個人のコミュニケーションに焦点を当てると、英語でもハイコンテキスト表現があるのでは、という仮説を立て、従来の二極化した見方に一石を投じたいと考えています。授業は基本的に2、3人の少人数で行われ、多様な分野の先生方や他の学生との会話、意見交換も活発なので、研究のヒントを得られることも多いです。大学院での学びを通じて考える習慣が身につく、学びの解像度が高まっています。

教員紹介

☆の教員は研究指導担当 ★の教員は博士後期課程兼任

日本文学専修

- 天野 みどり 教授** ☆★
日本語学(現代日本語研究)
- 実際に用いられる言語を観察すること、言語現象を深く理解し問題点を明らかにすること、言語の仕組みを論理的に説明することを指導していく。
- 井原 あや 准教授** ☆
近代・現代文学
- 近現代の小説や雑誌(文芸雑誌・女性雑誌)の投稿欄・読者欄について、ジェンダーの視点などさまざまな角度から検討し、社会の中にある規範や制度と文学の関係について研究する。
- 神林 尚子 准教授** ☆
近世文学
- 日本近世文学、特に絵入り小説を中心に研究している。大学院の講義では、作品の緻密な読解を目指し、語句や表現、挿絵、同時代の流行等を含め、幅広い観点からの調査と考察を重視して指導を行う。
- 木戸 雄一 教授** ☆★
日本近代文学
- 19世紀後半の諸言説から、近代の言語および言説の体系の成立について研究する。
- 君嶋 亜紀 教授** ☆
中世文学
- 院政期から鎌倉・南北朝期の和歌文学。表現そのものの機制と時代との関わりという視点から、歌語と表現方法、表現意識、歌集の構想について分析している。
- 久保 堅一 教授** ☆
中古文学
- 『竹取物語』や『源氏物語』など物語文学を中心に研究。作品間のつながりや漢籍の受容に注目している。表現を丁寧に分析し、和・漢の知識を広く持つことを重視して指導を行う。

英語文学・英語教育専修

- IKEDA, KEN 教授** ☆★
英語教育(社会や学習者)
- 日系アメリカ人の歴史とその映画表象、英語授業の観察と談話分析、英語の使用に関する学生の意識を研究する。
- 伊東 武彦 教授** ☆★
英語教育学
- 【修士課程専攻主任】外国語教授理論、教師論、教材論、異文化コミュニケーション論、外国語教育政策の分野において、わが国の英語教育の在り方を考察する。
- 江連 和章 教授** ☆★
英語学
- 広義の認知・機能言語学の枠組みにて、英語の意味論と語用論の領域を研究する。文の形式と意味の対応、談話機能との相互関係などから「言語の本質」を究明する。
- EVANS, H. 教授** ☆
言語学
- 自然言語処理やAIなどの先端技術と言語理論、人類の進化プロセスにおける文化・言語・認知の相互作用、AIや機械学習を活用した教育イノベーションについて研究する。
- 新谷 敬人 教授** ☆
音声学、音韻論
- アクセント、イントネーションなどのプロソディを中心とした実験研究。国際語としての英語を念頭においた、日本人が目指すべき英語発音、教育方法の研究。

国際文化専修

- 李 美淑 准教授** ☆
メディア研究、ジャーナリズム研究
- 女性やマイノリティがメディアの中でどのように描かれ、語られるのかを(批判的)言説分析や制作過程分析を通じて考察する。また、ジャーナリズムの国際比較研究にも取り組んでいる。
- 井上 淳 教授** ☆★
国際政治学、国際政治経済学、EU研究
- EUの各種政策、貧困削減や紛争予防における国連との連携などを、理論や分析枠組と実証を組み合わせ研究している。
- 榎本 恵子 准教授** ☆★
フランス文学、フランス演劇
- フランス演劇、特にフランス古典喜劇に浮き彫りにされる16世紀末から18世紀の政治、社会、価値観の推移を総括的に検証していく。
- 興津 妙子 教授**
国際教育開発、比較教育学
- 開発途上国における教育の在り方について研究。また、「持続可能な社会」の実現に向けて、教育はどのような貢献をすることができるのかについても研究を行う。
- 川村 寛文 准教授** ☆
メディア文化論、カルチュラル・スタディーズ
- 情動をテーマに、アニメを中心にしたメディア文化などについて研究している。また、メディア・テクノロジーの発展がもたらす人間社会や精神の在り方への影響などについても、理論的・批判的・学際的に研究している。
- JOHNSON, G.S. 教授** ☆
日本史、児童史、教育史
- 戦争と子ども、戦争体験談、文化(文学、映像、画像など)における子どもの像、スポーツ史、現代文化における伝統を研究。
- 関本 紀子 准教授**
東南アジア史
- フランスによるベトナム植民地統治の実態、植民地期ベトナムの社会構造や地域性について、物価変動、度量衡(計量器、計量単位)、交通運輸などの観点から分析・解明している。

- 銭 国紅 教授** ☆★
中国と日本を中心とする比較文化・比較思想、トランスナショナル文化論、東アジア研究
- 中日両国の文化と社会の本質特徴などさまざまな課題を学問的視点からだけでなく、学際的に分析する。

- 倉住 薫 教授** ☆
上代文学
- 日本上代文学の韻文作品である万葉集の表現研究。同時代の散文作品である古事記・日本書紀・風土記と受容された漢籍なども踏まえた多岐にわたる用例分析や、研究方法の観点から指導を行う。
- 小井土 守敏 教授** ☆★
中世文学
- 日本古典文学としての中世文学のうち散文作品を対象に研究。『平家物語』などに代表される「軍記文学」を中心に研究する。
- 桜井 宏徳 教授** ☆
古代文学
- 平安時代から南北朝時代にかけての和歌・物語・日記などの仮名文学と歴史叙述を中心に研究。方法論に自覚的であること、時代やジャンルを超える広い視野を持つことを重視して研究指導を行う。
- 内藤 千珠子 教授** ☆★
近代・現代文学
- 近現代の物語の構造を、ナショナリズムとジェンダーという主題で検証し、物語の定型に含まれる暴力をフェミニズム批評の視点で考察。方法論的な観点から研究指導を行う。
- 増野 弘幸 教授**
中国古典文学
- 周から六朝を中心とする中国古典詩における表現と習俗の関係について探求。主に詩に表現される比喩表現について文献などを利用しながら考察する。

- 鈴木 紀子 准教授** ☆
アメリカ文化、アメリカ研究
- 第二次世界大戦以降の日米間の文化政治的関係を考察する。映画や文学を通して、米国の民主主義が戦後日本に移植され、受容されていく複雑な様相を解析する。
- 田代 尚路 准教授** ☆
英文学
- イギリスのロマン派からモダニズム期までの詩を研究する。詩における話者(「私」)の位置および桂冠詩人制度において顕在化される詩の社会的役割について考察する。
- 夏目 康子 准教授** ☆
英文学、児童文学
- 20世紀のヴァージニア・ウルフや21世紀のカズオ・イシグロなどのイギリス小説、および、マザーグース、ルイス・キャロル、現代の児童文学を研究しています。物語の構造分析や、英語から日本語への翻訳の比較研究も行なっています。
- 村上 丘 教授** ☆★
英語学
- 最新の論文・文法書を精査し、英語の多様な言語現象に関するさまざまな主張を批判的に検討する。言語資料は大容量の電子化されたコーパスを活用する。
- 米塚 真治 教授** ☆★
アメリカ文学
- 20世紀アメリカの作品の中に見る人間の描き方から、フィクションの力と有効性について考察する。

- 戸田山 祐 専任講師**
アメリカ史、移民研究
- アメリカ合衆国とメキシコのあいだを移動する移民の歴史を研究している。また、アメリカ合衆国におけるラテンアメリカ系市民の政治参加の歴史と現状も研究対象としている。

- 松木 博 教授** ☆
日本近代文学、比較文学
- 明治初期(1880年代)以降の日本近代文学を研究対象とし、森鷗外を中心に据えて持続的に考察する。
- 松田 春香 准教授** ☆
東アジア国際関係史、韓国・朝鮮近現代史
- 近現代の朝鮮半島を中心とする東アジア国際関係史を主に研究している。外交的側面だけでなく、国際関係が社会・文化にどのような影響を及ぼすのか、も考察している。
- 松村 茂樹 教授** ☆★
中国文化論、アジア太平洋国際交流論、サーバントリーダーシップ論
- 【博士後期課程専攻主任】私の専門は、中国文化論であったが、2015年度の米国ポストン研修以降、米国発の「サーバントリーダーシップ(servant leadership: リーダーとして「ヨコ」のつながりを重視し、他者へ仕える精神)」の研究へ新たに取り組んでいる。

- 守田 美子 教授**
英語学、英語教授法
- 言語学の見地を生かしつつ、日本語と英語の比較を通して、コミュニケーションの違いや、文化・社会の差異を読み解く。また言語による視点の違いを生かした英語の教授法についても考察する。
- 吉田 光浩 教授** ☆
日本語学(日本語史)
- 日本語の歴史・語彙論の研究。日本語の変遷や、言葉が、非言語の要素とどのように関係しながら、コミュニケーションを成立させているかを考察する。
- 渡邊 顕彦 教授** ☆★
西洋古典学
- 専門は古代ギリシアとラテン語、ローマ文学、文化、歴史など。最近では後世(特にキリシタン時代と明治以降)における西洋古典の受容、古代地中海のイメージ形成と拡散も研究している。

現代社会研究専攻

現代の社会に必要な コミュニケーション能力と 調査・支援のスキルを身につけます

現代社会研究専攻は、二つの専修から成り立ちます。情報コミュニケーション専修では、現代社会の構造的基盤を成す情報コミュニケーションに関わる諸問題の理論的・実証的な分析力を深めます。さらに、AI（人工知能）技術の進展が社会に与える影響に着目し、AIと社会との関係に関する実務応用的な学びを提供するカリキュラムを展開し、情報技術の高度な専門知識を実社会で活用できる人材の養成に力を入れています。臨床社会学専修は、都市文化、ジェンダー・差別、福祉とケアなど現代社会に起きている社会現象を実証的に調査研究し、そこに起きている問題に対する実践的政策を探ることを目指します。

いずれの専修も、現代社会が要請する専門的な学問領域と職業領域との連携を図り、コミュニケーション能力と臨床能力を備えたより高度な職業人の養成を目標としています。

修士論文題目

- ICTを活用した遠隔スーパービジョンに関する研究ーソーシャルワーク実践力を向上させるためのスーパービジョンツールの開発ー
- ハビトゥスによって生じる男性に従属的な女性の行為ーミソジニーとの関連からー
- マゾヒズムの言説と行為における女性の主体性の社会学的分析
- 認知症患者の点滴を通して考える終末期医療の課題ー臨床看護師の視点からー
- 笑う若者ーお笑い番組と若者の人間関係の関連についてのー考察ー
- 日本社会における難民の受け入れに関する研究ー日本の難民に関する新聞報道の検討を中心にー
- 避妊に関する女性の「自己決定」のあり方ー低用量ピルに対する女性の意識に関する分析からー
- 医療機関の精神保健福祉士実習における実習評価尺度の開発ーソーシャルワーカーの価値を伝えるためにー
- 震災復興における自助と女性の負担ー支援活動の視角からー
- 支援の現場からみた児童虐待の現在一言説としての「世代間連鎖」を考えるー

令和7（2025）年度
授業時間割表



履修キャンパス

千代田キャンパス

※情報コミュニケーション専修

多摩キャンパス

※臨床社会学専修

※主な履修キャンパス。科目により履修キャンパスが異なります。

修士課程

情報コミュニケーション専修

臨床社会学専修

学位

修士課程：修士（社会学）

取得可能な免許・資格

教育職員専修免許状

本学大学院研究科の修士課程を修め、修士の学位を有し、教育職員免許法に定める所定の条件を満たした方は、専修免許状を取得することができます。

※1種免許状未取得の方も、科目等履修生制度を利用することにより、専修免許状取得が可能です（ただし、免許状の取得には3年以上かかります）。

高等学校教諭専修免許状（情報）

専門社会調査士

詳しくは一般社団法人社会調査協会ホームページ（<https://jasr.or.jp/>）をご確認ください。

お問い合わせ

情報コミュニケーション専修
臨床社会学専修
TEL：042-372-9970

教員紹介

☆の教員は研究指導担当

情報コミュニケーション専修

- 荒川 潔 教授** ☆
エネルギー経済学
エネルギー消費効率の改善や環境負荷の低減を目的とした太陽光発電と蓄電池、電気自動車と統合したシステムの普及を促進する税制や料金体系、規制とは何かを研究する。
- 磯山 直也 専任講師**
ヒューマンコンピュータ、インタラクション
人とコンピュータの関わりについて研究。どのようなシステムが、使いやすいか、心地よいか、楽しく過ごせるかなどを対象に、システムを提案し、実装・評価実験を進める。
- 市村 哲 教授** ☆
AI、人工知能
AI（人工知能）の概要や基礎的な仕組みを学ぶとともに、演習を通してAIの使い方を習得する。さらにAIを問題解決の手法として活用できるよう研究指導を行う。
- 落合友四郎 教授**
情報学、データ科学
数理論理学から情報科学・データ科学まで広がる学際的な研究をする。数学的・統計的手法を理論的に開発し、時系列分析、ネットワーク科学や金融・生物・医学等に応用する。
- 小野 茂 教授**
情報基礎科学
ネットワーク産業を中心に産業のダイナミズムを企業単位で分析。産業の発展過程における企業間関係の役割を明確にし、企業戦略や産業政策などへの知見を得る。
- 桑島 由芙 教授**
マーケティング、消費者行動論、ブランド論
企業のマーケティング戦略やブランド戦略、消費者の購買行動データの分析、あるいは消費者間のネットワークに着目した消費者間相互作用に関する理論的・実証的なテーマについて研究指導を行う。
- 小谷 敏 教授** ☆
現代文化論
マスコミュニケーションの基礎理論と歴史的研究。ポピュラーカルチャー、若者や子どもの文化についての研究指導を行う。
- 齊藤 豊 教授**
国際経済学、ICT人材の国際労働力移動論
情報通信技術があらゆる職業分野に浸透する過程における産業構造の変容や職業構造の変化などの研究を行う。

臨床社会学専修

- 池田 緑 准教授** ☆
社会学（および国際社会学）、ポストコロニアリズム研究、ジェンダー論
性差とジェンダー・セクシャリティに関わる諸問題、差別や権力関係に関わる諸問題、近代性の変容などを研究する。
- 伊藤 美登里 教授** ☆
社会学史、社会学理論、知識社会学
ドイツ社会学の学説史、ドイツ社会学理論、社会の構造変化に関する社会学理論ないし現代社会論などの研究。
- 井上 修一 教授** ☆
社会福祉学、高齢者福祉論
高齢者福祉の領域において研究を進める。特に①特養入居者家族が抱く罪悪感、②一人暮らし認知症高齢者と見守り活動等のテーマに関して専門的に指導する。
- 牛山 美穂 准教授** ☆
文化人類学、医療人類学、質的調査法
文化人類学・医療人類学を専門にしている。日本と英国でアトピー性皮膚炎をテーマに関き取り調査を行ってきた。よりよい医師ー患者関係とはどのようなものか、考えている。
- 小川 浩 教授** ☆
障害者雇用及び就労支援
障害者福祉及び障害者雇用施策に関するテーマを担当する。特に、障害者雇用・就労支援に関わる国内および国外の制度、支援方法および技術、人材養成等について研究する。
- 尾久 裕紀 教授** ☆
精神保健、リスクマネジメント、臨床における法と倫理
精神保健、リスクマネジメント、臨床における法と倫理に関する研究指導を行う。日常の問題に目を向け、研究テーマに絞り込む過程を大事にしている。
- 金 美辰 教授** ☆
社会福祉学、介護福祉学、多文化共生
福祉分野における外国人材に関する諸課題、多文化共生社会の実現に向けた支援、在日コリアン高齢者の抱える諸課題、高齢者の社会活動を通じた経済支援や介護予防等に関する調査で研究指導を行う。
- 木村 絵里子 准教授**
文化社会学、歴史社会学
日常的な女性文化について社会学的な研究を行っている。ビジュアルイメージやメディア文化、恋愛関係等、歴史的な視角を含む現代的様相を文化社会学的に考察している。

単位互換制度

大学院社会学分野の単位互換制度について

今日の学問の高度化と専門分化の進展の中で、大学院にふさわしい高度な研究教育を実現するためには、各大学における改善努力とともに、多数の大学間の提携が、大きな効果を上げることが期待されています。社会科学諸分野の中でも、一つの大学において開講される授業科目数が比較的に少ない社会学分野においては、特に複数の大学間での単位互換制度の導入によって、大学院生により豊富な学習機会を提供することは、有益かつ必要な改革と考えられます。本学の現代社会研究専攻では、相互の交流と発展を目指して、社会学分野ならびにその関連分野の授業科目に関して、特別聴講学生の単位互換制度を設けています。この制度によって修得した単位は、10単位を超えない範囲で本学大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができます。

- 田中 清 教授**
サービスシステム、メディア情報処理
若者にも高齢者の方にも使いやすい、適切なデバイスやメディアを用いた新しい情報サービスについて研究する。新しいオンラインライブや情報アシストサービスを具体化する。
- 堤 江美子 教授** ☆
図学
現代社会における3次元空間の構築や写実的表現方法について、2次元・3次元に表現された3次元形状の認識・理解の様相について研究する。
- 藤村 考 教授** ☆
ブロックチェーン、NFT
ブロックチェーンを活用した電子価値の取引や、NFTによる認証技術を研究し、AIを用いてプロトタイプを開発。実用的なシステムの提案を行っています。
- 干川 剛史 教授** ☆
公共圏論、情報社会論、ボランティア論、災害情報研究、地域再生論
現代社会の構造と変動過程を解明するための概念とキーワード（公共圏、公共性など）を課題に設定し研究を行う。
- 宮崎 美智子 准教授** ☆
認知科学、発達心理学
乳幼児における社会性や自己／他者認識の発達過程をテーマとして、多感覚統合と他者との相互作用という切り口から、質的・量的アプローチによる実証的解明を目指している

- 山崎 志郎 教授** ☆
1940年代日本の産業金融政策、高度成長期から低成長移行期の産業政策
20世紀日本の経済史・経済政策史を政府機関や企業などの一次資料に基づき分析。戦時・戦後期における市場への政策介入から、現代経済の特質を解明する。

- 山田 幸三 教授** ☆
経営戦略論、経営組織論、企業家論
日本企業の新規事業開発の戦略と組織、ならびに伝統的な地場産業産地のビジネスシステム、アントレプレナーシップに関する理論的・実証的なテーマについて研究指導を行う。

- 久保田 滋 教授** ☆
政治社会学、都市社会学
現代社会における政治や集会的行為に関する社会学的研究。都市における社会関係、社会空間、文化現象に関する研究を理論的・実証的に行う。

- 藏野 ともみ 教授** ☆
社会福祉学、精神保健福祉学、ソーシャルワーク論
〔修士課程専攻主任〕保健医療福祉領域におけるソーシャルワーク実践評価を基本に、ソーシャルワーク介入の効果測定とその方法について研究を行う。

- 嶋貫 真人 教授** ☆
社会保障法
現代社会における社会保障制度（年金、医療保険）の在り方について、主として法務的なアプローチを用いながら考察していく。

- 田中 俊之 教授** ☆
ジェンダー論
戦後日本社会における〈男らしさ〉の変容について、「男性が男性だからこそ抱えてしまう問題」を取り扱う男性学の視点から、とりわけ男性と仕事との関わり合いに注目して研究をしている。

- 丹野 真紀子 教授** ☆
社会福祉学、ソーシャルワーク論
医療福祉論とソーシャルワーク論に関する研究。社会福祉における実践と理論の融合について考え、医療現場や福祉実践現場にソーシャルワーク理論として活用する研究。

- 原野 かおり 教授** ☆
介護福祉学、医療福祉学
専門領域は、介護福祉学、医療福祉学であり、高齢者の遂行機能と下部尿路症状に関する研究を行っている。介護福祉関連課題に対する研究方法について指導を行う。

- 牧野 智和 教授** ☆
自己の社会学、教育社会学
メディア・テキストの分析を通して、社会がどのような「自己」であることを、どのような「心」「感情」を有することを求めているのか考察する。

- 松本 早野香 准教授** ☆
社会情報学、コミュニティと情報技術
何らかの課題を抱える集団に着目し、それを社会学的に読解するための調査を行う。同時にその課題の部分的な解決を目指す情報技術について考察、提案する。

- 山本 真知子 准教授**
社会福祉学、子ども家庭福祉学
さまざまな課題のある子どもとその家族への支援を中心に研究している。①里親・ファミリーホーム家庭への支援②障害児・難病児のきょうだいへの支援③保育所などにおける地域への家庭支援。

》大学院社会学分野の単位互換制度に加盟している大学

（50音順）

茨城大学大学院	人文社会科学研究所	東洋大学大学院	社会学研究科
駒澤大学大学院	人文科学研究科社会学専攻、グローバル・メディア研究科	常盤大学大学院	人間科学研究科
埼玉大学大学院	人文社会科学研究所文化環境専攻	日本女子大学大学院	人間社会研究科現代社会論専攻
埼玉県立大学大学院	保健医療福祉学研究科	日本大学大学院	新聞学研究科
成蹊大学大学院	文学研究科社会文化論専攻	法政大学大学院	社会学研究科社会学専攻
専修大学大学院	文学研究科社会学専攻	武蔵大学大学院	人文科学研究科社会学専攻
創価大学大学院	文学研究科社会学専攻	明治学院大学大学院	社会学研究科社会学専攻
大正大学大学院	人間学研究科人間科学専攻	明治大学大学院	政治経済学研究科政治学専攻、文学研究科臨床人間学専攻
千葉大学大学院	人文公共府人文科学専攻	立教大学大学院	社会学研究科社会学専攻
中央大学大学院	文学研究科社会情報学専攻・社会学専攻	立正大学大学院	文学研究科社会学専攻
都留文科大学大学院	文学研究科社会学地域社会研究専攻	流通経済大学大学院	社会学研究科社会学専攻

（令和7年4月現在）

臨床的な態度と科学的思考力を備えた
臨床心理士・公認心理師を養成します

本専攻は、(公財)日本臨床心理士資格認定協会第1種指定大学院であり、同時に公認心理師受験資格を得るために必要な科目を履修できるカリキュラムを整えています。本専攻では、将来、「保健医療」「福祉」「教育」「司法・犯罪」「産業・労働」などさまざまな領域で、適切な支援と研究のできる有能な臨床心理士・公認心理師を育成します。精神分析的心理療法、来談者中心療法、分析心理学的心理療法、認知行動療法、家族療法などをバランスよく学習し、きめ細かいスーパーヴィジョン体制のもとで豊富な事例を通して実践的に学びます。また、大学院修了後の教育体制が整っていることも大きな特色の一つとなっています。特に、本専攻では、心理療法とロールシャッハ法を中心とする投射法検査に習熟した力動的視点を持った人材を養成しています。

また、確かな就職実績があり、多くの修了生が臨床心理士、公認心理師として現場で活躍しています。

修士論文題目

- 特別な教育的支援を必要とする児童とその周囲児に対する教師の関わりの検討
- 現代青年期女性の「ひとりの居場所」についての一考察
ー成長過程における肯定的な側面に着目してー
- 思春期における不登校経験者の両親イメージの研究
ー対象関係の視点からー
- 中学校スクールカウンセラーのコンピテンシーモデルの検討
ースクールカウンセリングの課題の明確化ー
- 心理臨床場面においてクライエントの自己隠蔽が緩和される要因とプロセス

令和7(2025)年度
授業時間割表



本専攻ホームページ「専攻の活動情報」欄に、資格試験の結果、大学院生の学会活動などが紹介されています。大学院案内と併せてご確認ください。

臨床心理学専攻のホームページ



臨床心理学専攻
修士課程 2年
池田 有里奈さん

学内外の
豊富な実習を通して
臨床現場で役立つ
実践力を磨く



本専攻には、実践力を磨く学内外の実習機会が豊富にあります。現在、学内の心理相談センターと学外の精神科クリニックで3人の子どものクライエントを担当。心理相談センターのケースは修了後も担当でき、責任を持ってクライエントに関われる点が魅力です。また、学外実習として教育支援センターに行った際、集団における子どもたちの力関係を見立てるポイントを実習先の先生に教えていただき、教科書だけでは分らなかった部分の理解が深まりました。座学で学んだ知識を実践に移すことで、臨床現場で役立つ力がついていると感じます。修士論文では、子どもを対象とした遊戯療法において、子どもとセラピストの間に展開される「甘え」の心理に着目して研究しています。指導教員だけでなく、専攻の先生方がそれぞれの研究領域からアドバイスをしてくださるので心強いです。将来は、教育・医療領域で子どもや養育者の支援に携わりたいと考えています。

本専攻の特徴

大きく分けて基礎分野と専門分野、研究指導、臨床指導、そして卒業教育から成り立っています。基礎・専門分野は臨床心理士、公認心理師受験資格取得に必要な科目を中心に構成されています。特に、ロールシャッハテストをはじめとする投射法や知能検査などの心理検査の習得に力を入れており、所見が書けるようになることを目標にしています。研究指導は研究法に関する科目群と並行して、指導教員とほぼマンツーマンの修士論文指導を2年間にわたって毎週受けます。

さらに臨床指導は、修士課程1年次の後半から実際の事例を担当しはじめ、専任教員によるグループ・スーパーヴィジョン、個人スーパーヴィジョン、非常勤スーパーヴァイザーによる少人数のスーパーヴィジョン、親子並行面接などにおける事例担当者同士の事例検討会、院生全員と複数教員が同席してのケースカンファレンス、ロールシャッハテストを中心とする心理査定ケースカンファレンスと手厚い指導体制が組まれています。

卒業教育は修了後の1・2年間、研究員として心理相談センターの事例を担当することができ、同時にスーパーヴィジョンも受けられます。その後も必要に応じて相談協力員として心理療法を続けることもできます。また、さらにその後もグループ・スーパーヴィジョンなどに参加でき、これらを通じて臨床心理士、公認心理師資格取得後も真の専門家として自立できるようになるまで、手厚い指導が受けられます。

学会活動などについて

本専攻では、大学院生に学会活動などへの参加を積極的に奨励しています。たとえば、日本心理臨床学会への参加や研究発表、その他、各種学会のワークショップへの参加などです。また、大学学部でのTA(ティーチング・アシスタント)になることをすすめています。

実習のプロセス

		大学院の実習系科目		学内実習 心理相談センター		学外実習	
1 年 目	M1前期	臨床心理基礎実習		実習の準備		実習の準備	
		ロールプレイ					
		臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習)		施設見学 プレイルーム体験 心理相談センター紀要の閲覧		先輩から実習先に関する情報提供 実習先に関する事前学習 見学実習	
		インテーク・カンファレンスへの参加 実習ガイダンス		カンファレンスへの参加 倫理教育			
	審査に合格すると心理相談センターの「実習生」として登録される						
	夏休み	臨床心理基礎実習		実習(ケース担当以外)		見学実習	
		他大学院との試行カウンセリング スーパーヴィジョン(専任教員)		受付実習(先輩の補助) 電話実習(先輩の補助)		療育センター・EAPなど	
	M1後期	臨床心理基礎実習		実習(ケース担当)		臨床実習(通所)	
		ロールプレイ					
		臨床心理実習Ⅱ		インテーク面接の陪席 ナースリー(きょうだい面接) プレイセラピー(個人) 心理療法(個人) 心理検査(質問紙法/知能検査/投映法)		教育支援センター 療育センター 精神科病院	
インテーク・カンファレンスでの発表 学内実習スーパーヴィジョン(専任教員) 学外実習スーパーヴィジョン(専任教員) 学外実習巡回指導(専任教員)		臨床心理士・公認心理師によるケース検討会		見学実習 児童相談所・教育センターなど			
2 年 目	M2前期	臨床心理特別実習Ⅰ		実習(ケース担当)		臨床実習(通所)	
		インテーク・カンファレンスでの発表 学内実習スーパーヴィジョン(非常勤講師) 学外実習巡回指導(専任教員)		カンファレンスでの発表 学外実習スーパーヴィジョン(専任教員) ロールシャッハ・グループスーパーヴィジョン		中学校 総合病院精神科 小児医療機関など	
	夏休み	臨床心理特別実習Ⅰ		実習(ケース担当以外)		臨床実習(通所)	
		学内実習スーパーヴィジョン(非常勤講師) 学外実習スーパーヴィジョン(専任教員) 学外実習巡回指導(専任教員)		受付実習(後輩の指導) 電話実習(後輩の指導)		中学校 総合病院精神科 小児医療機関など	
	M2後期	臨床心理特別実習Ⅱ		実習(ケース担当)		臨床実習(通所)	
		インテーク・カンファレンスでの発表 学内実習スーパーヴィジョン(非常勤講師) 学外実習巡回指導(専任教員)		カンファレンスでの発表 学外実習スーパーヴィジョン(専任教員) ロールシャッハ・グループスーパーヴィジョン		ケースの継続・引き継ぎ・終結の対応 紀要の執筆(ショートレポート)	
	審査に合格すると心理相談センターの「研究員」として登録される						
	3 年 目	研究員	研究・臨床活動		実習(ケース担当)		
			スーパーヴィジョン(非常勤講師)		ケースの継続 プレイセラピー(個人) 心理療法(個人) 心理検査(質問紙法/知能検査/投映法)		
			臨床心理士・公認心理師資格試験に合格すると相談協力員として登録可能(無給と有給の2種類あり)				
4 年 目		相談協力員	研究・臨床活動		研究・臨床活動		
	スーパーヴィジョン(専任教員) スーパーヴィジョン(非常勤講師)		ケースの継続 面接(親子並行面接) インテーカー 大学院実習生・研究員の指導				

教員紹介

☆の教員は研究指導担当

臨床心理学専攻

- 春日 文 専任講師

臨床心理学、
生涯発達心理学

母子関係や歌いかけ・歌唱活動の研究、子育て・孫育て支援や緩和ケア領域における心理学的援助に関する研究に取り組む。人の発達・加齢に寄り添いながら、家族・地域へと広がりを持つ支援の在り方についての研究・指導を行う。
- 香月 菜々子 教授 ☆

臨床心理学、
分析心理学的心理療法

思春期・青年期・成人期のクライエントおよびその家族に対する心理療法、また、投射法・映写描画法を中心とした心理アセスメントと成長促進的なフィードバックをテーマに、研究および実践指導を行っている。
- 田中 優 教授 ☆

社会心理学

対人関係、特に、親密な対人関係における互恵的相互依存関係に関する理論研究、および、実践研究を行う。複線経路等至性アプローチ(TEA)による質的研究、多変量解析による量的研究による修士論文指導を行っている。
- 福島 哲夫 教授 ☆

分析心理学的心理療法、
統合・折衷的心理療法

心理療法に関する量的・質的研究の実施。特に統合的心理療法の視点からのプロセス研究などに力を入れている。

- 豊富な学外・学内実習による臨床研修

2年間を通じ学外実習は精神科病院および精神科クリニックと子ども関連施設(教育センター、適応指導教室、子ども病院など)を含む平均3カ所、学内実習は子ども、母親、青年、成人のケースなど含めて1人平均3・4ケース担当
- 02

少人数の大学院生に対する専任教員・非常勤教員による手厚いスーパーヴィジョン体制
- 03

ロールシャッハ・テストをはじめとする心理検査の訓練に力を入れており、修了までに全員がかなり精密な所見書を書けるレベルに達するカリキュラム
- 04

2020年から2025年に修了した現役受験生は公認心理師の合格率6年連続100%を達成。修了生の95%が臨床心理士資格を有する。模擬試験など受験サポートも充実。
- 05

整った卒業教育体制
(研究員・相談協力員制度など)
- 06

他大学出身者も多数在籍



人間文化研究科

3つのポリシー

入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)

大妻女子大学大学院は、すでに修得した知識や技術をより一層深めて、広く社会と専門領域に貢献する意欲の高い人、また、多様な経歴や独創的な研究課題をもった人を幅広く求めている。各専攻が求める人は、以下のとおりである。

- 人間生活科学専攻は、環境、衣、食、住、行動、子育て、心理、健康などの人間生活に関わる実践的な研究を通じて、高度な職業能力を身につけたい人。
- 言語文化学専攻は、言葉と文化を深く研究する中で、自己を形成し、広く社会に貢献していこうとする意思を強くもっている人。
- 現代社会研究専攻は、現代における性差やジェンダーおよびケア、様々な社会問題、情報やコミュニケーションの歴史的な展開およびその仕組みに関わる問題を、基本から応用まで真摯に学びたい人。
- 臨床心理学専攻は、さまざまな臨床領域において適切な援助、介入および研究のできる専門家になろうという志を強く持ち、共感的理解および論理的思考のできる、社会的スキルを備えた人。

■人間生活科学専攻

<修士課程>

人間生活科学専攻は、人間生活に関わるさまざまな企業や研究所、行政機関などの高度な職業能力を必要とする分野において活躍するために不可欠の基礎的な素養と応用的能力を涵養することを目的としている。この専攻は健康・栄養科学、生活環境学、保育・教育学の各専修からなる。各専修では複数の専修にまたがる問題について学際的に探求できる人材を視野に入れており、次のような志望者を望んでいる。

- 環境・衣・食・住・行動・子育て・心理・健康などの人間生活に関わる研究を通じて高度な職業能力を身につけたい人
- 生活者として生活素材に興味をもち、それらの研究・開発の専門家を指す人
- 人間の発達と行動のダイナミズムを研究し、その研究成果と得られた専門的能力を職業人として活かしたい人
- 発達・発達と臨床の視点から、子どもや子どもの文化、子育てについて理解を深め、障害を支援することに携わりたい人
- 職業に就きながら、生活科学に関する実践的な研究を通じて、高度な職業人としての能力を高めたい人

<博士後期課程>

人間生活科学専攻は、生活の主体である人間と生活に関するさまざまな分野を対象として、研究者として自立した研究活動を行うのに必要な高度の能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的としている。人間生活科学専攻には、健康・栄養科学、生活環境学、保育・教育学の領域があり、それぞれの領域または、複数の領域にまたがる問題について生活する人間という立場から総合的な研究も行うため、次のような人を望んでいる。

- 自立した研究者としての必要な基礎学力と研究に対する熱意を有する人
- 自己の研究と社会の関係に深い関心をもち、すなわち、人間の生態、環境、

- 行動、心理などについて研究する人
- 修士課程を修了し、あるいはこれと同等の学力を有する人で、本学の人間生活科学の各領域に深い関心をもち、研究意欲をもつ人
 - 職業に就きながら、上記(1)・(2)に関連した研究を行い、自己の能力を高めていきたい人

■言語文化学専攻

<修士課程>

言語文化学専攻は、言語と文学として結実する人間のあり様に、さらに文化的な視点をまじえた複層的な事象を研究の対象としている。具体的な対象や領域は、自然発生的で単純にみえるものから技巧が加えられた精緻なもの、静的なものから動的なものまでさまざまである。なにがときほぐれ明らかにするか、それはどのような問いを発するかによる。問い方、そして答えをまとめる技法を身につけることで、成果を世に問うことができる。そして成果だけでなく、問い方、答えのまとめ方も社会の共有財産となる。みずみずしい感性をもち、ことばと文化を深く研究する中で自己を形成し、広く社会に貢献していこうとする以下のような強い意志の持主を望んでいる。

- 日本文学や日本語を深く研究したい人
- 日本文学や日本語の深い理解力を身につけたい人
- 日本語の実践力を高めたい人
- 日本の歴史や文化を文学から考え直したい人
- 知的で洗練された英語が読める英語のエキスパートを目指す人
- 外国語習得理論を深く理解し、専門性の高い英語教員を目指す人
- 言語学的な観点から英語のしくみと動きを知り、高度な英語のコミュニケーションに役立てたいと思っている人
- 文学作品の専門的研究を通して人間や社会、文化のあり方について理解を深めたいと考えている人
- 国際的視野で問題発見、問題解決に取り組むたい人
- 自らの興味に基づく研究により、本質を見抜く能力を身につけたい人
- 仮説を立て論証する研究能力を身につけ、実務に活かしたい人
- 本質を見えた説得力ある提案ができるようになりたい人

<博士後期課程>

言語文化学専攻修了者は、文学・言語・文化を中心とした専門性・文学教育・言語教育や国際文化・日本文化に対する知見、国際的視野に立つ多文化理解力とコミュニケーション能力などを保持した人材が社会から求められているため、学校教育現場のみならず、社会教育にかかわる諸機関、出版・放送などのメディア関係での活躍が期待できる。そのような人材を養成するために、次のような人を望んでいる。

- 日本文学や日本語を専門的に研究したい人
- 日本の文化や歴史を文学から専門的に研究したい人
- 日本文学や日本語に対する深い専門性をもって国際的に活躍したい人
- 英語を言語学的観点から科学的・体系的に研究したい人
- 英語文学作品やその他のさまざまなテキストを文化的・社会的文脈の中で読

- み解く能力をもち、文体的感性を高めたい人
- 言語学や文学の素養を生かし、英語教育を多角的に研究したい人
 - コミュニケーション文化に関する高度な研究能力を身につけたい人
 - 国際的視野から日本文化を捉え、最新の比較文化の理論を踏まえて独創的な研究を推し進めたい人
 - 仮説を立て論証する研究能力を駆使して、本質を見えた説得力ある提案ができるようになりたい人

■現代社会研究専攻

<修士課程>

現代社会研究専攻は、現代社会そのものを動かしていく重要な要因となる情報通信技術が引き起こす多様な現象を主たる研究対象とする情報コミュニケーション専修と、現代の深刻な社会問題の背景に潜在している性差やジェンダーと、福祉とケアに関わる問題を対象とする臨床社会学専修から構成されているため、次のような人を望んでいる。

- 現代社会の動態に関して、社会科学の観点から考えようとする意欲をもっている人
- 現代の情報通信技術のあり方について、根本的に再検討しようという意欲をもっている人
- 現代社会における性差やジェンダーに関わる社会現象や社会問題に関心をもっている人
- 現代社会における福祉やケア、および様々な社会問題に関心をもっている人
- 大学院での専門的な学習成果を現実社会の中で活用したいという意欲をもっている人
- 実際に、現代社会の中で活用している自己の職業能力を今以上に向上させたい人

■臨床心理学専攻

<修士課程>

科学的思考と臨床的な態度を身につけ、臨床心理学的アセスメント、心理面接、地域援助の理論と技法を修得し、「保健医療」「福祉」「教育」「司法・犯罪」「産業・労働」などさまざまな領域で、適切な援助、介入及び研究のできる心理臨床の専門家を養成するため、次のような人を望んでいる。

- 基礎的な心理学の知識を備え、論理的思考のできる人
- 共感的理解のできる人
- 成熟した社会的スキルを備えた人

教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)

大妻女子大学大学院は、人間の生活と文化全般に関して、広い視野と学際的・総合的な視点に基づいた理論的・専門的・実践的な高度の教育と研究を行うことにより、社会関係資本の重要性が増す21世紀の社会をリードできる人材を養成するため、人間文化研究科に、人間生活科学専攻（修士課程・博士後期課程）、言語文化学専攻（修士課程・博士後期課程）、現代社会研究専攻（修士課程）、臨床心理学専攻（修士課程）を置き、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成している。

- 修士課程では、学士課程で得た成果を

- より幅広く発展させ、深い学識と人格を涵養するとともに、新しい専門的な知識と技術を批判的に修得して、自己の専門分野における研究能力と高度な職業能力を養うための教育・研究指導を行う。
- 博士後期課程では、修士課程での成果をさらに深化発展させ、より高度な専門的知識・技術を駆使して、広く人間の生活と文化全般に関わる諸問題を真摯に追求し、自立した研究活動の成果を挙げることができる人材養成のための教育・研究指導を行う。
 - そのために、各専攻の核となる教育課程の編成方針を以下のとおりとする。

■人間生活科学専攻

<修士課程>

柱となる学問分野として、「健康・栄養科学専修」「生活環境学専修」「保育・教育学専修」の3領域を設定する。「健康・栄養科学専修」では、医療、福祉、公衆衛生、初等・中等教育における食育などを担う専門家の養成、食品や医療分野での技術開発を担う高度な知識をもった人材の養成、および個人あるいは集団の健康のあり方について総合的に研究する研究者の養成のため、「栄養化学分野」「食品・機能学分野」「調理科学・食嗜好学分野」「医療・保健栄養学分野」にそれぞれ必要な科目を配置する。「生活環境学専修」では、衣環境、住環境、生活環境、地域環境、地球環境およびこれらを含む生活を含め、それらのサイエンス、マネジメント、デザインの研究・教育を行い現代社会における専門知識の高度化に対応できる高度専門職職業人ならびに研究者養成のため、「環境サイエンス分野」「環境マネジメント分野」「環境デザイン分野」にそれぞれ必要な科目を配置する。

「保育・教育学専修」では、子どもから大人まで人生の各発達段階における保育・教育に関わる諸問題について、臨床的な視点を重視し、その本質や背景要因の解明に積極的に取り組みなから、理論的・実践的な問題解決能力を身に付けると同時に、保育・教育の分野において高い見識を身に付けた高度な専門性を持つ実務者、保育者養成者、研究者の養成のために、「基礎教育分野」「保育・教育分野」「心理・社会・文化分野」にそれぞれ必要な科目を配置する。

<博士後期課程>

柱となる学問分野として、「健康・栄養科学専修」「生活環境学専修」「保育・教育学専修」の3領域を設定する。「健康・栄養科学専修」では、「栄養化学分野」「食品・機能学分野」「調理科学・食嗜好学分野」「医療・保健栄養学分野」にそれぞれ必要な科目を配置し、人間の生涯にわたり、個人あるいは集団の健康のあり方について研究するとともに、健康を推進するための諸要因について、総合的・学際的な観点から究明することができる研究者を養成するための教育・研究指導を行う。「生活環境学専修」では、「環境サイエンス分野」「環境マネジメント分野」「環境デザイン分野」にそれぞれ必要な科目を配置し、衣環境、住環境、生活環境、地域環境、地球環境およびこれらを含む生活における基本的問題を明らかにし、それぞれを改善推進するための具体的課題を解決するための教育・研究を行う。これらの研究を通して、人間の生活と諸環境とのかわりについて、総合的かつ学際的な観点から探求できる研究者を養成する。

アドミッション・ポリシー

カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシー

「保育・教育学専修」では、「基礎教育分野」「保育・教育分野」「心理・社会・文化分野」にそれぞれ必要な科目を配置し、教育、保育、家庭等実際の生活が行われる場において、具体的な環境と関わる人間の行動を、心とからだに関する成長・発達と、その背景としての諸要因について研究する。また、人間の生涯における健全な発達と、それを支えているメカニズムについて、保育・教育学の各学問領域において発達や臨床等の視点から追求し、それを発展させる指導法を目指し、それぞれの研究領域において、理論的、実践的な研究と指導に従事できる高度な知識・技術と研究能力を備えた実務者、保育者養成者、研究者を養成するための研究・教育を行う。

■言語文化学専攻

<修士課程>

柱となる学問分野として、「日本文学専修」「英語文学・英語教育専修」「国際文化専修」の3領域を設定する。「日本文学専修」では、「古典文学分野」「近代現代文学分野」「日本語学分野」にそれぞれ必要な科目を配置し、日本古典文学と日本近代現代文学および日本語学についての専門教育を行う。文学作品に対する高度な読解・解釈に基づき、日本文学および日本語の生成と発展を研究するとともに、学際的知識の拡充にもつとめ、新たな研究状況への適応ができる研究者を養成するための研究・教育を行う。「英語文学・英語教育専修」では、多様化する国際文化を展覧しつつ、文学と言語を切り口として英語文化の伝統と現在を対象とする研究と教育を推進する研究者養成のため、「英語文学分野」「英語教育分野」「英語学分野」にそれぞれ必要な科目を配置する。「国際文化専修」では、進展する国際化の中で多文化を対象とする研究と教育を推進して高度専門職業人および実践的研究者を養成するため、「コミュニケーション文化分野」「国際分野」にそれぞれ必要な科目を配置する。

<博士後期課程>

柱となる学問分野として、「日本文学専修」「英語文学・英語教育専修」「国際文化専修」の3領域を設定する。「日本文学専修」では、「古典文学分野」「近代現代文学分野」「日本語学分野」にそれぞれ必要な科目を配置し、日本古典文学と日本近代現代文学についての専門教育を行う。文学作品に対する高度な読解・解釈に基づき、日本文学の生成と発展を研究するとともに、学際的知識の拡充にもつと

め、新たな研究状況への適応ができる研究者を養成するための研究・教育を行う。「英語文学・英語教育専修」では、「英語文学分野」「英語教育分野」「英語学分野」にそれぞれ必要な科目を配置し、英米を中心とする英語文学、英語教育、英語学についての高度な専門教育を行う。最新の多様な文学理論、言語理論、言語習得・教育理論を踏まえ、独創的な研究を推進することによって学問文化の向上発展に寄与する研究者の育成を図る。「国際文化専修」では、「コミュニケーション文化分野」「国際日本文化分野」にそれぞれ必要な科目を配置し、複雑化し流動する世界情勢の中で、国際的視野に立ったコミュニケーション文化と比較文化についての高度な専門教育を行い、現代の国際間における諸問題の解決を図り、学問文化の向上発展に寄与する研究者および高度専門職業人の育成を図る。

■現代社会研究専攻

<修士課程>

柱となる学問領域として「情報コミュニケーション専修」と「臨床社会学専修」の2領域を設定する。「情報コミュニケーション専修」では、情報についての高い専門知識を身につけた人材の養成と、高等学校教科「情報」を担当する教員のステップアップを目的とする。そのため「情報」と「メディア」の史的発展と、インターネットに代表される多様な情報の仕組みを科学的に把握し、「情報」を収集・分析・統合する能力を獲得するため、「基礎理論分野」「社会・経済と情報分野」にそれぞれ必要な科目を配置する。「臨床社会学専修」では、社会学のみならず医学・介護学・看護学・教育学・心理学・福祉学・法学など学際的研究によってのみ解明し得る領域の研究を理論的かつ実践的に進める。そのため、ジェンダー・差別・権力などの視点から社会を考える「ジェンダー臨床分野」、福祉とケアの現代的課題の探求と解決を目指す「福祉臨床分野」、現代社会の諸問題を分析するための理論的理解と調査能力を養う「現代社会分析分野」にそれぞれ必要な科目を配置する。

■臨床心理学専攻

<修士課程>

科学的思考と臨床的態度を身につけ、心理臨床の専門的な能力を培い、適切な援助、介入及び研究ができる人材を育成するために、「臨床心理学基礎分野」「臨床心理学専門分野」「臨床心理学実践分野」にそれぞれ必要な科目を配置する。

具体的には以下のように教育課程を編成する。

- 臨床心理学的なアセスメント、臨床心理面接、臨床心理的地域援助の基礎的知識および技法を身に付けることができるように科目を配置する。
- 上記の研究に関する専門的知識及び量的・質的研究法を含む技法を身につけることができるように科目を配置する。
- 心理臨床の専門家に求められる「保健医療」「福祉」「教育」「司法・犯罪」「産業・労働」「心の健康教育」等の多様な領域に関する理論とその実践に関する科目を配置する。

<修士課程>

日本と英米の文学と言語を中心とした専門領域と、広く東アジアやヨーロッパに及ぶ文化領域にかかわる研究・教育を基盤として、近年内外で展開する政治、経済、文化の流動化を見据えながら、洋の東西にまたがる国際情勢と文化の動態を柔軟に取り込むの枠組を確立し、実践する能力を身に付けている。

<博士後期課程>

言語文化学専攻（修士課程）における日本文学・日本語学、英語文学・英語教育、国際文化の専門領域の研究・教育をさらに深化発展させ、内外で加速度的に流動化する社会・文化の動態を読み解き、多様化し先鋭化する研究分野の動向や理論の展開に柔軟かつ強靱に対応して、自立した研究活動の成果を挙げる能力を身に付けている。

■現代社会研究専攻

<修士課程>

高度情報社会が要請する情報分野もしくは臨床社会学分野の専門的知識と技能を基礎にして、現代社会が提起する複雑な諸問題の解決に主体的に取り組む学術的基盤と実践的能力を獲得し、実社会に貢献する能力を身に付けている。

■臨床心理学専攻

<修士課程>

健康・栄養科学、生活環境学、保育・教育学などの研究を基盤とし、さらにこれらの研究の枠を超え、人間および人間が生活する社会、環境について、衣・食・住、発達・心理、教育、情報、文化、健康などのさまざまな視

点から総合科学として捉えると同時に、生活の知を探求する能力を身に付けている。

<博士後期課程>

人間生活科学専攻（修士課程）における健康・栄養科学、生活環境学、保育・教育学専修の専門領域の研究・教育をさらに深化発展させ、高度な専門的知識・技術を駆使して、広く人間の生活現象に関わる諸問題を真摯に探求し、解決する能力を身に付けている。

■言語文化学専攻

<修士課程>

日本と英米の文学と言語を中心とした専門領域と、広く東アジアやヨーロッパに及ぶ文化領域にかかわる研究・教育を基盤として、近年内外で展開する政治、経済、文化の流動化を見据えながら、洋の東西にまたがる国際情勢と文化の動態を柔軟に取り込むの枠組を確立し、実践する能力を身に付けている。

<博士後期課程>

言語文化学専攻（修士課程）における日本文学・日本語学、英語文学・英語教育、国際文化の専門領域の研究・教育をさらに深化発展させ、内外で加速度的に流動化する社会・文化の動態を読み解き、多様化し先鋭化する研究分野の動向や理論の展開に柔軟かつ強靱に対応して、自立した研究活動の成果を挙げる能力を身に付けている。

■現代社会研究専攻

<修士課程>

高度情報社会が要請する情報分野もしくは臨床社会学分野の専門的知識と技能を基礎にして、現代社会が提起する複雑な諸問題の解決に主体的に取り組む学術的基盤と実践的能力を獲得し、実社会に貢献する能力を身に付けている。

■臨床心理学専攻

<修士課程>

科学的思考と臨床的態度に加え、将来、臨床心理士、公認心理師として働くのに必要な、臨床心理学的なアセスメント、臨床心理面接、臨床心理的地域援助及びそれらの研究に関する専門的な知識および量的・質的研究法を含む技法を修得し、適切な援助、介入及び研究を行う能力を身に付けている。

課程の修了

■修士課程

課程の修了には、2年以上在学し、所定の授業科目について30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、本学の行う修士論文の審査および最終試験に合格することを要します。なお、教育研究上必要な場合は、本学大学院の他の専攻の授業科目を履修し、8単位を限度として、これを修士課程の単位にすることができます。

■博士後期課程

課程の修了には、3年以上在学し、所定の授業科目について人間生活科学専攻においては10単位以上を、言語文化学専攻においては12単位以上を修得し、かつ、本学の行う博士論文の審査、最終試験および学力の確認に合格することを要します。

■最終試験

最終試験は、論文を中心とし、これに関する研究領域について、口述試問、筆記試験によって行います。

学費・奨学金

学費（令和7年度実績）

	人間生活科学専攻		言語文化学専攻		現代社会研究専攻		臨床心理学専攻	
	本学卒業（見込）者	左記以外	本学卒業（見込）者	左記以外	本学卒業（見込）者	左記以外	本学卒業（見込）者	左記以外
入学手続時納入金合計	394,700	564,700	374,700	544,700	384,700	554,700	385,380	555,380
上記以外にかかる在学時納入金合計	1,178,300	1,178,300	1,118,300	1,118,300	1,148,300	1,148,300	1,148,300	1,148,300

	人間生活科学専攻					
	2年（通常）		3年履修		4年履修	
	本学卒業者	左記以外	本学卒業者	左記以外	本学卒業者	左記以外
	394,700	564,700	271,550	441,550	207,200	377,200
入学手続時納入金合計	394,700	564,700	271,550	441,550	207,200	377,200
上記以外にかかる在学時納入金合計	1,178,300	1,178,300	1,312,950	1,312,950	1,388,650	1,388,650

	言語文化学専攻					
	2年（通常）		3年履修		4年履修	
	本学卒業者	左記以外	本学卒業者	左記以外	本学卒業者	左記以外
	374,700	544,700	258,050	428,050	197,200	367,200
入学手続時納入金合計	374,700	544,700	258,050	428,050	197,200	367,200
上記以外にかかる在学時納入金合計	1,118,300	1,118,300	1,246,450	1,246,450	1,318,650	1,318,650

	現代社会研究専攻					
	2年（通常）		3年履修		4年履修	
	本学卒業者	左記以外	本学卒業者	左記以外	本学卒業者	左記以外
	384,700	554,700	264,550	434,550	202,200	372,200
入学手続時納入金合計	384,700	554,700	264,550	434,550	202,200	372,200
上記以外にかかる在学時納入金合計	1,148,300	1,148,300	1,279,950	1,279,950	1,353,650	1,353,650

	人間生活科学専攻		言語文化学専攻	
	本学修了（見込）者・本学卒業者	左記以外	本学修了（見込）者・本学卒業者	左記以外
入学手続時納入金合計	345,400	515,400	325,400	495,400
上記以外にかかる在学時納入金合計	1,744,100	1,744,100	1,644,100	1,644,100

（注） ・修士課程の本学卒業（見込）者とは、大妻女子大学および大妻女子大学短期大学部卒業（見込）者です。
・博士後期課程の本学修了（見込）者・本学卒業者とは、大妻女子大学大学院修士課程修了（見込）者・大妻女子大学および大妻女子大学短期大学部卒業者です。
・実験・実習にかかる費用（材料費、実習費等）は入学後実費を納入していただきます。
・毎年度若干の変動の可能性があります。その他、授業料など学費の詳細については学生募集要項をご確認ください。

奨学金制度

日本学生支援機構奨学金 高度の研究能力を有し、 経済的に修学困難と認められる者に貸与されます。 修士課程を対象とした授業料後払い制度もあります。 ※返還の義務あり		貸与月額		
		第一種（無利子）		第二種（有利子）（月額）
		第一種（月額）	授業料後払い制度	5万円、8万円、 10万円、13万円、 15万円から選択
	修士課程	5万円、8万8千円から選択	授業料支援金： 授業料相当額 生活費奨学金（月額）： 0円（利用しない）、 2万円、4万円から選択	
博士後期課程	8万円、12万2千円から選択	—		
大妻女子大学大学院奨学金 成績優秀である者に貸与されます。 ※返還の義務あり	貸与月額			
	修士課程	5万5千円（無利子）		
	博士後期課程	6万5千円（無利子）		
大妻女子大学育英奨学金 学業・人物ともに優れ、かつ、 学費の支弁が困難な者に給与されます。 ※返還の義務なし	給与月額			
		自 宅	自宅外	
	修士課程	2万円	3万円	
	博士後期課程	3万円	5万円	
学校法人大妻学院特別育英奨学金 学業・人物ともに優れ、かつ、学費の支弁が困難で、 勉学意欲の高い者に給与されます。 ※返還の義務なし	給与月額			
	修士課程	2万円		
	博士後期課程			
一般財団法人 大妻コタ力記念会育英奨学金 学業・人物ともに優れ、かつ、学費の支弁が困難で、 勉学意欲の高い者に給与されます。 ※返還の義務なし	給与月額			
	修士課程	2万円		
	博士後期課程			

私費外国人留学生の授業料等減免制度
私費外国人留学生で修士課程または博士後期課程に入学を許可された者のうち、経済的に困難な事情のある者については、特別の審査を経て学生納付金を減額または免除することがあります。詳細は学生募集要項をご確認ください。（お問い合わせ／国際交流支援グループ）

大学院研究生制度
大学院を修了した後、さらに精深な研究を続けようとする者に対しては、大学院研究生の制度があります。大学院研究生は、大妻女子大学大学院奨学金の制度を利用できます。

入学試験・進学説明会日程

令和8（2026）年度 入学試験日程

入試種別	人	言	現	臨	出願期間（郵送必着）	試験日	合格発表日	入学手続締切日（郵送・当日消印有効）
学内選考	●	●	●	●	7月2日（水）～7月8日（火）	7月19日（土）	7月25日（金）	7月31日（木）
社会人特別選抜	●	●	●	●				
一般選抜I期	●	●	●	●	9月16日（火）～9月20日（土）	10月11日（土）	10月24日（金）	10月30日（木）
外国人留学生入学試験I期	●	●	●	●				
一般選抜II期	●	●	●	●	1月13日（火）～1月19日（月）	2月14日（土）	2月18日（水）	2月25日（水）
外国人留学生入学試験II期	●	●	●	●				

人＝人間生活科学専攻 言＝言語文化学専攻 現＝現代社会研究専攻 臨＝臨床心理学専攻

・入学定員(男女共修)							
人間生活科学専攻	12名	言語文化学専攻	8名	現代社会研究専攻	6名	臨床心理学専攻	6名

入試種別	人	言	出願期間（郵送必着）	試験日	合格発表日	入学手続締切日（郵送・当日消印有効）
一般選抜	●	●	1月13日（火）～1月19日（月）	2月14日（土）	2月18日（水）	2月25日（水）

人＝人間生活科学専攻 言＝言語文化学専攻
受験希望者は、本学ホームページに掲載されている授業科目の概要などを熟読し、志望専攻・専修の特徴についてよくご理解の上、出願してください。

入学定員(男女共修)			
人間生活科学専攻	3名	言語文化学専攻	3名

進学説明会

進学説明会は下記日程で行います。最新の情報は本学ホームページでご確認ください。また、出願までに進学説明会に参加するようにしてください。進学説明会に参加できない場合は、個別相談に参加して専攻への理解を深めてください。

専攻	日程	時間	開催場所
人間生活科学専攻	【第1回】6月6日（金）	16:30～	千代田キャンパス
		18:00～	
	【第2回】12月15日（月）	16:30～	
		18:00～	
言語文化学専攻	【第1回】6月5日（木）	17:00～ ※1	千代田キャンパス
	【第2回】1月7日（水）	18:00～ ※2	
現代社会研究専攻	【第1回】5月23日（金）	12:20～	オンライン
	【第2回】6月7日（土）	12:10～	
	【第3回】6月13日（金）	18:30～	
	【第4回】12月12日（金）	12:20～	

個別相談

右記より、各専攻の教員による個別相談が可能です。
お問い合わせなどもこちらから気軽にご連絡ください。

人間文化研究科
人間生活科学専攻
個別相談フォームの
詳細はこちらから>

人間文化研究科
人間生活科学専攻
個別相談フォームの
詳細はこちらから>

人間文化研究科
現代社会研究専攻
個別相談フォームの
詳細はこちらから>

人間文化研究科
臨床心理学専攻
個別相談フォームの
詳細はこちらから>

人間文化研究科
臨床心理学専攻
個別相談フォームの
詳細はこちらから>

大妻女子大学大学院では、大学卒業者だけでなく、指定された専修学校の専門課程を修了した方、大学院において個別の入学資格審査により認められた方（短大や専門学校を卒業した方であっても、社会における実務経験や取得した資格などが本学において認められれば、大学院受験資格が与えられます）にも門戸を開いています。詳細は広報・入試センター（TEL:03-5275-0404）までお問い合わせください。

大妻女子大学大学院

人間文化研究科

■ 人間生活科学専攻 | Studies in Human Life Sciences

■ 現代社会研究専攻 | Studies in Contemporary Society

■ 言語文化学専攻 | Studies in Language and Culture

■ 臨床心理学専攻 | Studies in Clinical Psychology

[お問い合わせ]

千代田キャンパス 広報・入試センター

〒102-8357 東京都千代田区三番町12番地
TEL:03-5275-0404

≫受付時間

平日8:30～16:40、土曜日8:30～13:10

多摩キャンパス 教育支援・学事グループ

〒206-8540 東京都多摩市唐木田2丁目7番地1
TEL:042-372-9970

≫受付時間

平日8:50～17:00、土曜日8:50～13:30



[大学院ホームページ]



[アクセス]



[大学院入試情報]



メールでの
お問い合わせは
こちらから ▶

